

【想定】震度6強の地震が筑西市を直撃

茨城県・筑西市総合防災訓練

8月27日、茨城県と筑西市は、下館運動公園（上平塚^{かみひらつか}）を会場に、総合防災訓練を開催しました。目的は、災害時の迅速で的確な防災活動や防災関係機関の緊密な協力体制の強化、市民の防災意識高揚を図ることなど。自衛隊や県警察、日本赤十字社、筑西広域市町村圏事務組合消防本部、市消防団、自治会、ボランティア団体、市民など、約100機関、3千人が参加した訓練の一部を紹介します。



被害状況把握・情報収集

本アマチュア無線連盟茨城県支部などが、情報収集・伝達活動。

住民非難・炊き出し

避難勧告の発令を受けた市民が避難所へ。避難所では、陸上自衛隊と日本赤十字社、ボランティアの婦人防火クラブなどが共同で炊き出し。

救護所開設・医師派遣要請

に支障をきたさないよう、筑西警察署や茨城県警備業協会などが交通規制と交通整理。

災害対策本部を設置



地震発生を受けた県および市は、初動体制の確立を図るため災害対策本部を設置。富山市長を本部長とする市対策本部は、近隣市町村や消防機関、自衛隊に対し派遣応援を要請。

【災害想定】

8月27日午前9時30分、筑西市付近を震源とする直下型地震が発生。地震規模はマグニチュード7.3、震度は6強。市内の各所で家屋倒壊や地割れが起こり死傷者が発生、火災に見舞われている。また道路の損壊による交通機関の被害をはじめ、電気や電話、水道ガスなどのライフラインに壊滅的な打撃を受けた。さらに前日までの雨の影響により、増水した河川の堤防に決壊の恐れが…。



筑西広域消防本部と市消防団が編成した情報収集班、陸上自衛隊のヘリコプター・偵察バイク・小型車量、航空自衛隊のF15戦闘機・RF4偵察機、県の防災ヘリコプター、県警機動隊のオフロードバイク部隊、赤十字飛行隊などが、被害状況把握活動を展開。また、下館郵便局赤バイク隊や日

交通規制

災害応急活動や緊急物資輸送



市は、多数の負傷者を救護するために救護所を開設し、茨城県医師会と真壁郡医師会に医師の派遣を要請。集まった医療機関関係者は、県医師会による現地医療対策本部の支持・命令のもと救護活動。



初期消火訓練



住宅火災の拡大を防ぐための消火訓練。栗崎自衛消防団や西保末婦人クラブは可搬式ポンプ、市内各自治会からの参加者は消火器、川島小学校児童はバケツリレーによる消火を体験。

水防訓練

増水した河川の氾濫を防ぐため、市消防団が越水防止活動。



高層ビルの被災者を救出

ビル屋上の被災者を、県警察本部機動隊のレスキュー車や筑西広域消防本部のはしご車、県防災ヘリコプターなどを使い救出。



倒壊建物の被災者を救出

県機動隊と航空自衛隊が倒壊した建物の障害物除去を行い、残された負傷者を救出。



列車脱線転覆事故

筑西広域消防本部救助隊と近隣消防本部救助隊が、地震によ



り脱線転覆した列車に取り残された負傷者を救出。



道路・ライフライン復旧

倒壊した建物や自動車など道路上の障害物を、陸上自衛隊と筑西建設業協会が、ユニック車やクレーンなどを用いて除去。また、NTT東日本などが通信設備、東京電力などが電力、指定管工事業組合が水道を、それぞれ復旧。

医薬品などを搬送

時間の経過とともに医師や輸血用血液などの医療品が不足。埼玉県防災航空隊・防災ヘリコプターが、全日病院医療班から医師団を、赤十字血液センターから輸血用血液製剤を空輸。茨城県医薬品卸売り協会は、救急医薬品を医薬品集積場に搬送。集積場で

は、茨城県薬剤師会が医薬品を整理・保管し、必要に応じて救護所に配布。



火災防御・空中消火訓練



発生したビル火災を各消防本部のはしご車などを使い消火。茨城・埼玉・栃木県防災ヘリコプターが、空中から消火活動を実施。

宿泊避難訓練

8月26日・27日、五所小学校の児童と保護者約100人が、下館総合体育館（上平塚）に泊り込み、宿泊避難訓練に参加。地震車による地震や非常食などを体験しました。